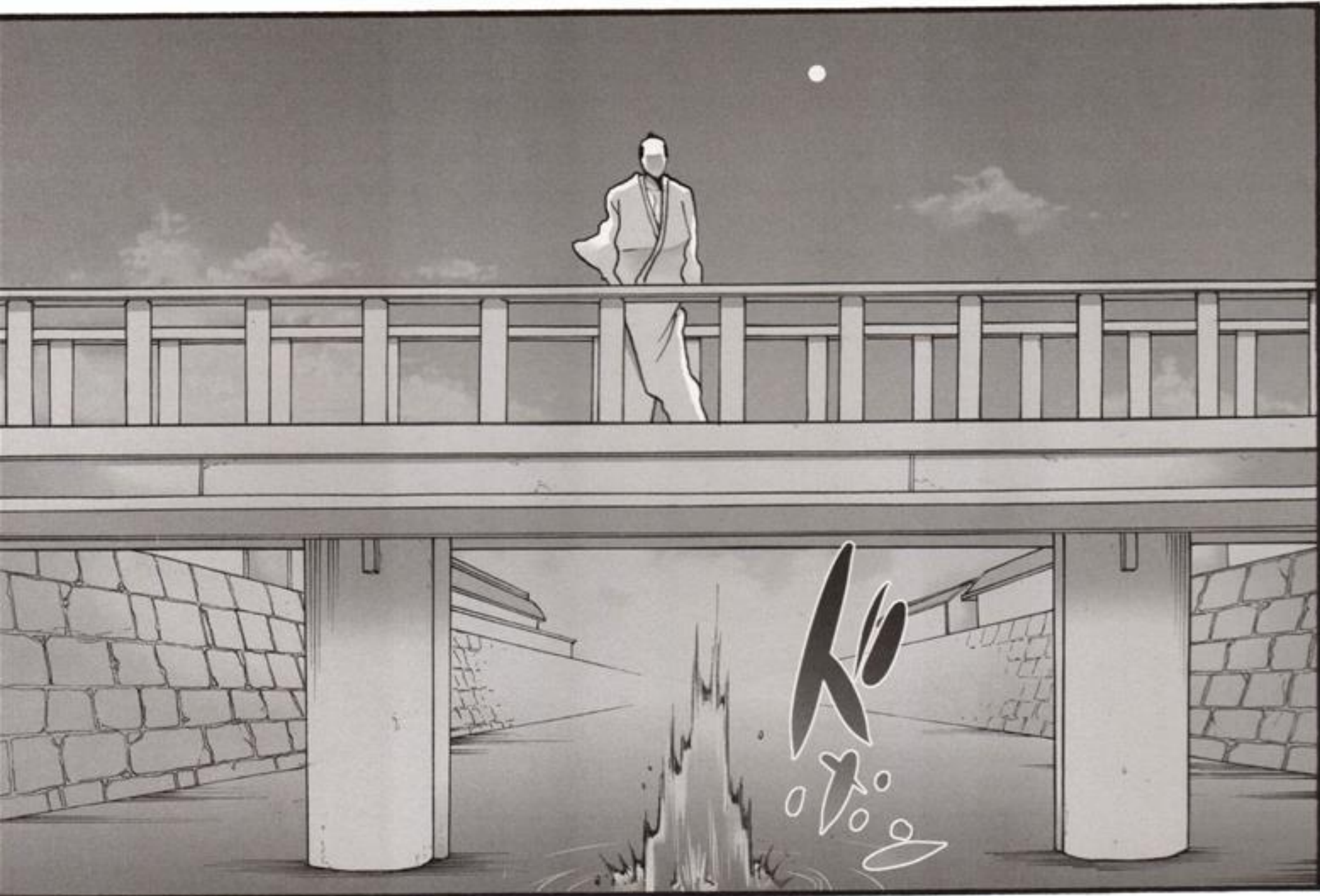
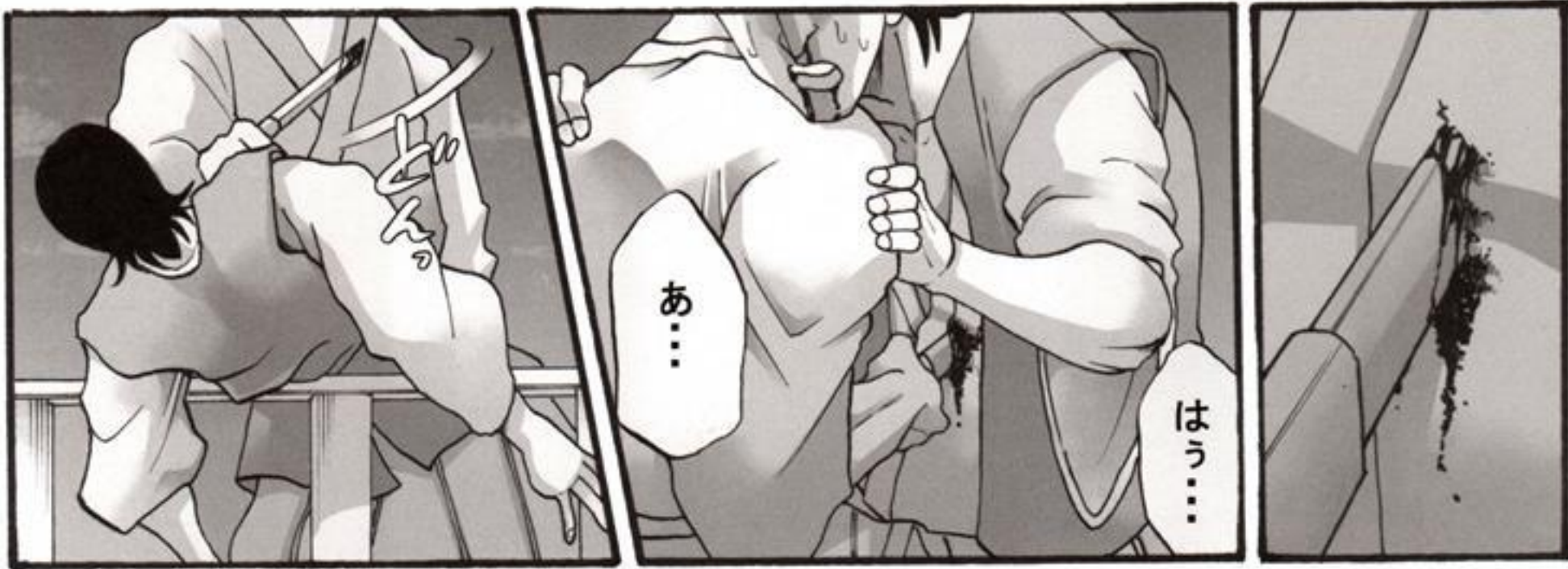




月
お水
さん
に
おん
が
ま
ま
つ
ま
り
さ
れ
て
し
ま
う
ま
り

※十八歳未満の購読を禁じます
著 かつおぶし



あらすじ

鳳仙支配下での百華の行状をネタに強請を
かけられた月詠は、情報の隠蔽と引き換えに
男に抱かれる事となる。
その場限りの情事で男との取引が終わった
と安堵する月詠。だが再び男は現れた。
月詠が抗えぬ事情に付け込み執拗に淫行を
繰り返す男。屈辱にまみれながらも陵辱され
続ける他に術のない月詠。
果たしてこの悪夢に終焉は訪れるのだろうか。



至っては... 止むを... んっ 得まい...
いいんですかい 挿入しちゃって ますぜ
はあ
わっ ココ...



この格好なら 早く出せそう ですよ
そっそれ
はあ



へへ... このケツを 見るだけで 抜けちまい そうですよ
本当... だらうな



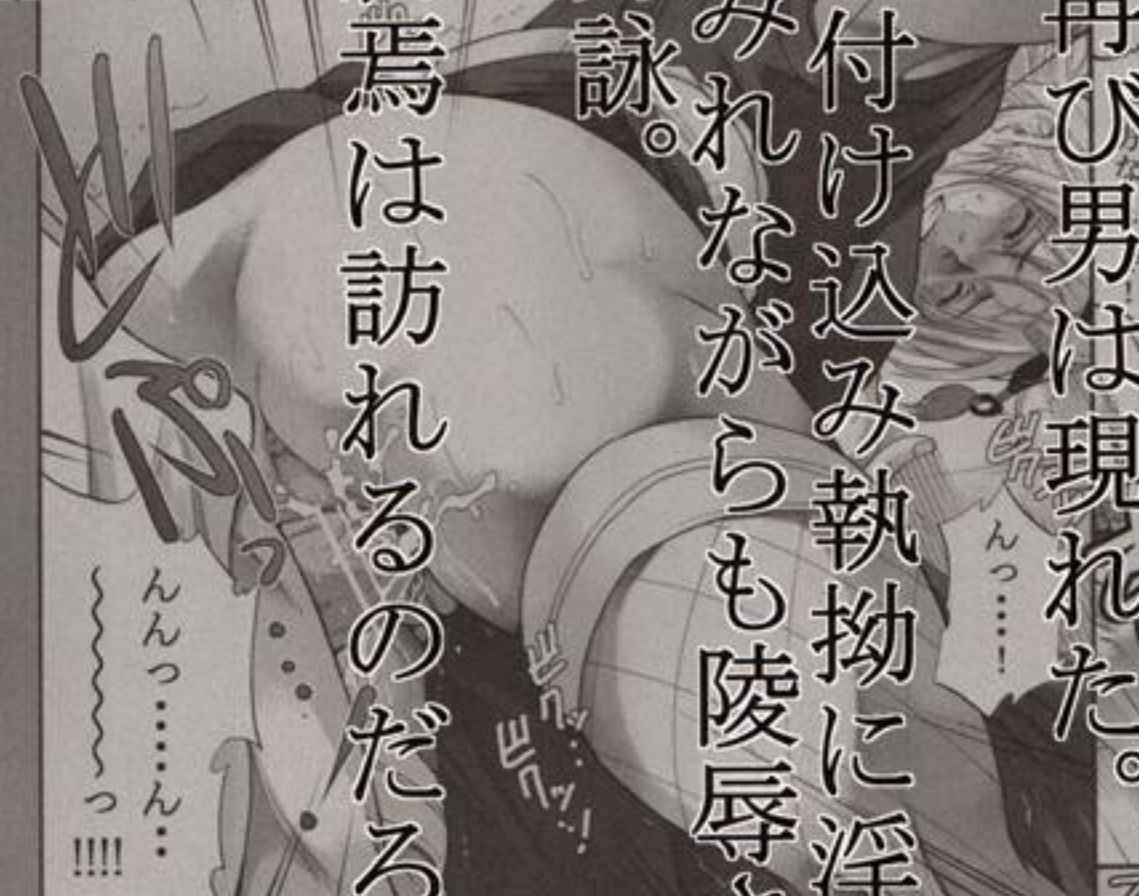
んっ...
んっ!



このケツを 前に我慢なんて 殺生でしょうよ
んっ!



仕方 あるまい はあ
あつしの上に 跨る月詠さんは 気持ち良さそうに 見えましたぜ



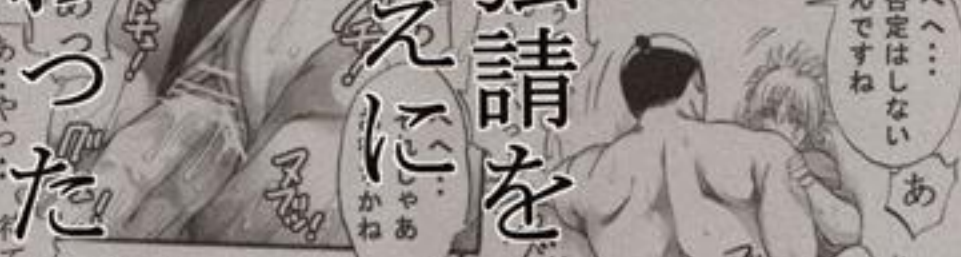
んんっ...んんっ...!!!!
んんっ...!!!!



あん!
あつ
へへ... 否定はしない んですね
あ



はあ
はあ
はあ
はあ



あつ
あつ
あつ
あつ

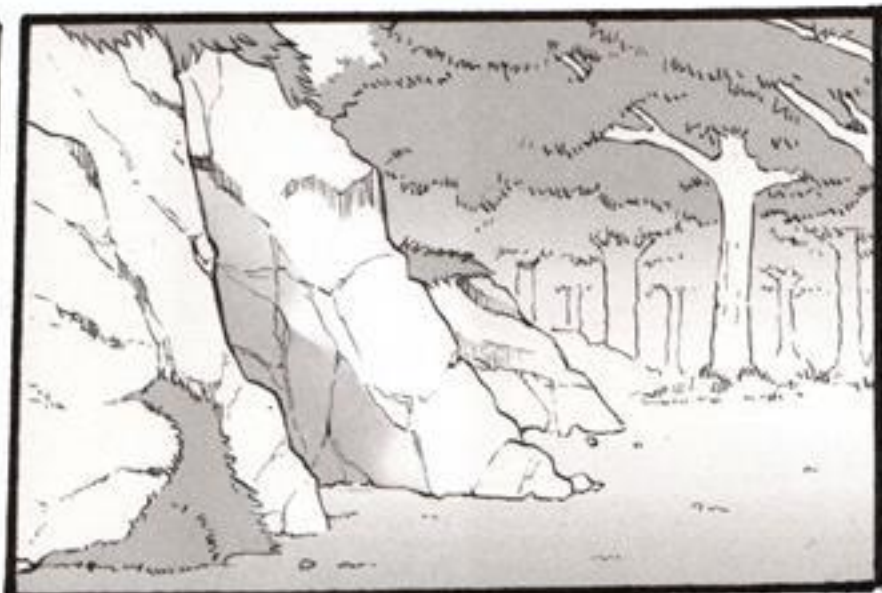


はあ
はあ
はあ
はあ



あつ
あつ
あつ
あつ





わざわざ
訪ねてくれるたあ
あつしの温もりが
恋しくなり
ましたかね

驚いたな
まだ軽口を
叩きおろすのか

何の諍いかは知らぬが
組頭を殺めたのは
威勢が良すぎたのう

江戸中の筋者が
ぬしを血眼になって
探しておるぞ

理由

知りたい
ですか？

数日後には
土左衛門に
なられる御仁に
興味も何も
ありんせん

はは…
こいつあ
手厳しい

ところで
月詠さん



抱きたくなっちまいましたよ

んんっ!!!

あーっ



それにこの香り...

今なにか飲まされた!?



こんな時につ... 血迷うたか!

こんな時だからこそじゃないですか

ぼた

じた

じた



ようやく効いてきましたかね

...!?

墮淫香

くっ…

女はより女に
男はより
男につて
香ですよ

くっ…

しかもこいつは
便利なことに
中毒性が極めて
高くてね

う…

くっ…

使えば使うほど
効果が高まるって
シロモノなん
ですよ

ぬっ…

離っ…んっ…
さぬかっ!

月詠さんにも
憶えのある
香りでしょう

やめんか…
こらっ…!!

…あっ!

くっ…

あっ…!!

いいじゃないですか
何度も愛し合った
仲でしょうよ

ククク...

妄言を弄すな！
望んだ事など
一瞬たりとも
ないわっ！

いいですね
そそりますぜ
あっしはその方が
燃えるんですよ

んっ！
ギョッ

やめんかっ...！
くっ...んっ...
このっ...！
いい加減に
せぬかっ...！

ギョッ
んん...

ギョッ
くっ...！

離さぬか！
痴れ者が！

ぬかったわ...
自覚できる程に
香の効果
回ってきておる

はあ

これはいかん...
力が入らぬ上に
厄介な事は...

はあ



やあ...

あつ...

はあ どこを... 触っておる

あつ...

あつ



これだけ極上の肉 飽きる事なんて 有り得ませんぜ

あつ... ざけるなあ...!

はあ

あつ

こやつが 触れた所 すべて...

身体の奥から... 熱くなってくる...

またまた ご謙遜を

はあ

はあ

はあ



はあ

このっ...

散々翳って おいてっ... まだ足らぬか!

はあ

あつ...



くう... なんとか して...

香の効を... 止め...ねば...

はあ

このままでは
身動きひとつ
とれぬように
なってしまう...

はあ

はあ

はうっ！

あ.....！

ズン
ズン

ズン

びん...

あっ...

ズン
ズン

ズン
ズン

うっ...

指一本で
随分反応して
くれますねえ

はあ

はあ

ぬしの指かと
思うと...

吐き気が
したのでな...

はあ



どうですかい？
久しぶりの
あつしの手管は？

はあ

最っ・悪の
気分じゃ…！
うっ…あ…！

指を…っ…
抜かぬかつ！
あつ

あつ



どこまで
持ちます
かね

月詠さんの体あ
知り尽くしている
つもりですぜ

誰がぬし
如きにつ…

調子につ…
乗るでない！

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



はあ

そう言われると
哭かしたくなる
性分でしてね

もっとも
こっちはもう
哭いてるみてえ
ですがね

んっ

これしきの
事で...

いい気に...んっ...
なりなんしっ!

まさか
これしきで
終いだと
お考えで?

んっ

もいっ
もいっ

はあ

もいっ

もいっ

にちや

にちや

くちや

くちや

はあ

はあ

くちや

くちや

くちや

くちや

あっ!

あっ!

あっ!

ええいっ
離さぬか!

いつまで
撫で回せば
気が済むか!

月詠さんが
思っている以上に
あっしはツボを
心得ていますぜ

あっ!

あっ...
やめっ...

そこ...あ...
あっ...やっ...
やめぬかっ!
あ!

あっ!

いいですかね
月詠さん

んんっ！

そろそろ
イカしち
まいますよ

どこまでも
自惚れ……
おつて……！

ここが
良いんでしょう？
イツちまい
なさいよ
ホラ！

あつ！

やめっ……
あつ

ホラ！

んんっ！

んんっ
……
!!!

へへ……
オレも辛抱
たまりま
せんぜ……

はあ

はあ

はあ



月詠さんの
中あまるで
極楽ですぜ

あつ
はあ

わっちには…
地獄じゃ…!!

つれない
ですわえ

千回…!!
あつ

こんなに
気持ちいい
つてのに

はあつ

はあつ

わっちには
不快なだけ
じゃ…!!

はあ

良いのは
ぬしだけ
じやろう!!

はあ

そうです
かねー?

う…あ…

こっちは
美味そうに
啜え込んで
ますぜ?

あつ

めっちゃ



あんなあつ

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

あつ

ぽん



まさか…
ありえぬ…

はあ

こんな下衆に
好き勝手されて
いるとゆうのに…

はあ



どうしました
月詠さん

へへ…

あつ

あつ

あつ

はあ

あつ



もしかして
あんまり良過ぎて
憎まれ口も
叩けませんか？

はあ

…！
すまぬな

あまりに
ぬしの行為が
退屈でな

フン

はあ

ズン

ズン

はあ

はあ

ズン

んっ…
呆れて…
言葉が出ぬ
だけよ…っ！



そうゆうのが
たまんねえん
ですよ
中に出しち
まっても
いいでしょ？

はあ

はあ

んっ……くっ……
馬鹿かぬしは！

いいわけが
なかるうっ！

はあ



ああ やべえ
こんな早漏じゃ
まるでガキ
みてえですね

たまんねえ
良すぎますぜ
月詠さん

あつ
人の話をっ……
んっ……っ……
聞か……ぬかつ！

あんっ

やめい……
こら！

ああ もう
出ますよ
我慢できねえ

あつ



はうっ

あつ
出しちまい
ますよ
月詠さん

あつ

あんっ

あ……！
だめ……
やめい……！







あ!

あっ
あん



どうしました?
あっしのワザが
たまりませんか?

しばし……
待たぬか……!

だめじゃ
待てっ……

あっ

はあ

そうでは
ないが……

あっ

くはっ

はあ

あん

ああ



いかな……
こんな事を……
このまま
続けられては
……!!

あっ

あ

あっ

なんじゃ……?
昂ぶりが
まるで
収まらぬ……!



さつきから
イツてばかりだ
月詠さん

はあ

はあ

はあ

へへ……
凄え……

あっ……
……んっ……!
……んんっ!



可愛い乳首
おっ起てて
敏感に反応して
くれますね
嬉しい限りでさあ

あ
もみもみ

あつ
もみもみ



へへ……

香が回っても
鋭いですね
月詠さん



ほざけっ……！
ぬしの指を
舐めてから
何かおかし
のじゃ……！

あ

はあ

ズン

ズン

ズン

ズン

はあ

あつ

このっ……
卑怯者！

指先に何か
仕込んで
おったなっ！



はあ

情けない
男じゃな……

香がなければ
女も抱けぬか



あつ

こいつは
墮淫香の濃液
でしてね

やめ……ろ……!!!

一舐めすれば
どんな貞淑な女でも
メスに変えちまう
シロモンでさあ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

あ

へへっ…
わかるでしょ
マン汁でお股が
ぬるぬるですよ

あつ

はあ

はあ

あ

卑しい房術に
長けている
如きで…

大した頑張り
ですがね

チンポ突っ込まれ
ながらってのは
些か滑稽ですぜ

はあ

んっ…
この…!

はあ

いい気に
なりなんし!

はあ

くっ…

はあ

はあ

だっ…
黙れ…!

くそう…

はあ

ズ
ズ
ズ

イキたくて
たまんねえって
顔してますぜ

あっしも
出しちまい
そうですぜ

はあ…あつ
やめっ…

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

出すな…
ん…!
あつ…や…
やめぬか…!

ぬしのよ
下衆にこんな
辱め…っ…!

はあ

ズ
ズ
ズ

はあ

あ!

はあ

あーだめだ
止まりそうに
ありませんぜ

やつ…あ…
あ…あつ…
い…くうっ

あ!

ズ
ズ
ズ

あ…!

っ…!

くうっ
いい締まり
してますぜ

ズ
ズ
ズ

あつ……！
ぬしっ……
また……んっ……
出しおったな

はあ

あ

へへっ
中に出されて
いったでしょ？
満更でもない
じゃないですか

口惜しいわ……
んっ……うう……
こんな……

はあ……あ

香さえ
なければ
ぬし程度の
男……っ！

はあ

はあ

歯牙にも……
かけ……て……
おらぬわっ……！

はあ

はあ

あつ

かもしれませんが
こうして今
あつしと肌を合わせ
ている事実は
変えられませんぜ

はあ

はあ

濡れた肌は
物欲しそうに
吸い付いて
きやがる

あつ

下の口は
嬉しそうに
啜えて離さねえ

はあ

体は喜んで
いるんじゃない
ですかねえ

あん



凶星……
快樂が止まらぬ……
もつと欲しいと
求めたいほどに……

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ
はあ

だが悟られては
ならぬ……
奴の掌中に墮ちる
わけにはいかん……!



我慢は体に
毒ですよ

一緒に愉し
みましょうや
せつねえ顔
してますぜ

……っ！



こんな事……！

どう……
……して……
愉しめる
ものか……！

こうして……
……んっ……く……
好き……勝手
犯されて……

屈辱でしか
ないわっ！

あっ
ズン
ズン
ズン

はあ



くはっ

あっ……！

へへ……
体は正直な
もんですがね

あっ……あん！



わかりますよ
その強がりも
精一杯ってとこだ
んっ！

なっ…
何を…!?
このままじゃあ
どうにかなっちまい
そうなんでしょう



頑張り
ましたぜ
はあ

立派に
意地を通し
ましたよ



あ…
ヤバイくらい
出来あがつち
まってる

はあ



ぬしっ…
何を根拠に
…っ!
妄言を
弄すなっ！

お互い香に
酔っているん
ですぜ

月詠さんは
あつしより
辛えハズだ

んっ…!っ…!

香のせいだ
月詠さんは
悪くねえ



でも
これ以上は
無理ですぜ

はあ

ホントに
おかしく
なっちまう

はあ



誰にも知られねえ
月詠さんは
ただ身を任せて
いただけでさあ

はあ

はあ

はあ

こっから先はもう
仕方のない事で
しょうよ

ああ……
そうか……

この男から
逃れられぬ
はずだ

こやつはきつと
初めて出会う
その以前から

どうりで
無手のわっちが
敵わぬわけだ

んん……!

んふっ……
ん……ん……
んっ……!

綿密に
今日までの策を
張り巡らせて
おったのだろう

んん

!!!

んんっ

不覚
ただのチンピラと
侮っておったわ

へへ…
月詠さん
今またイキ
ましたよね？

アッ

はあ
あつ



もう何度
イッたかも
わかりませんね

あつ
あ

あつ

そうじゃ…！
悪いかつ
…！

アッ

アッ

アッ

あつ！

アッ

んっ…ぬしに…
突かれて…っ
何度も絶頂して
おるっ…！

これで…あつ…
んんっ…あつ…
満足か…っ！

あん

アッ

アッ

アッ

アッ

はあ…
止まらぬ…

また…
イク…っ

ああ…
なんたる…
なんたる様じゃ…

あ！

うっ…

アッ

アッ

んんっ

はあ

いい感じに
仕上がって
きてるじゃあ
ありませんか

あっしも
出しちまい
ますぜ

あっ

あっ

ああ……やめい……
今はだめじゃー!

あっ

ああ……

これ以上は……
ならぬ……んっ
あっ……ああ……

やめ……て……
くれ……っ!

ズン

ズン

ああ

ズン

あんっ

ズン

ズン

あっ

ズン

あっ

そいつあ
今更でしょうよ
一緒にイキま
しょうや

あっ

あんっ
だめ……

あっ

出しちまい
ますぜ!
味わって
下せえよ!

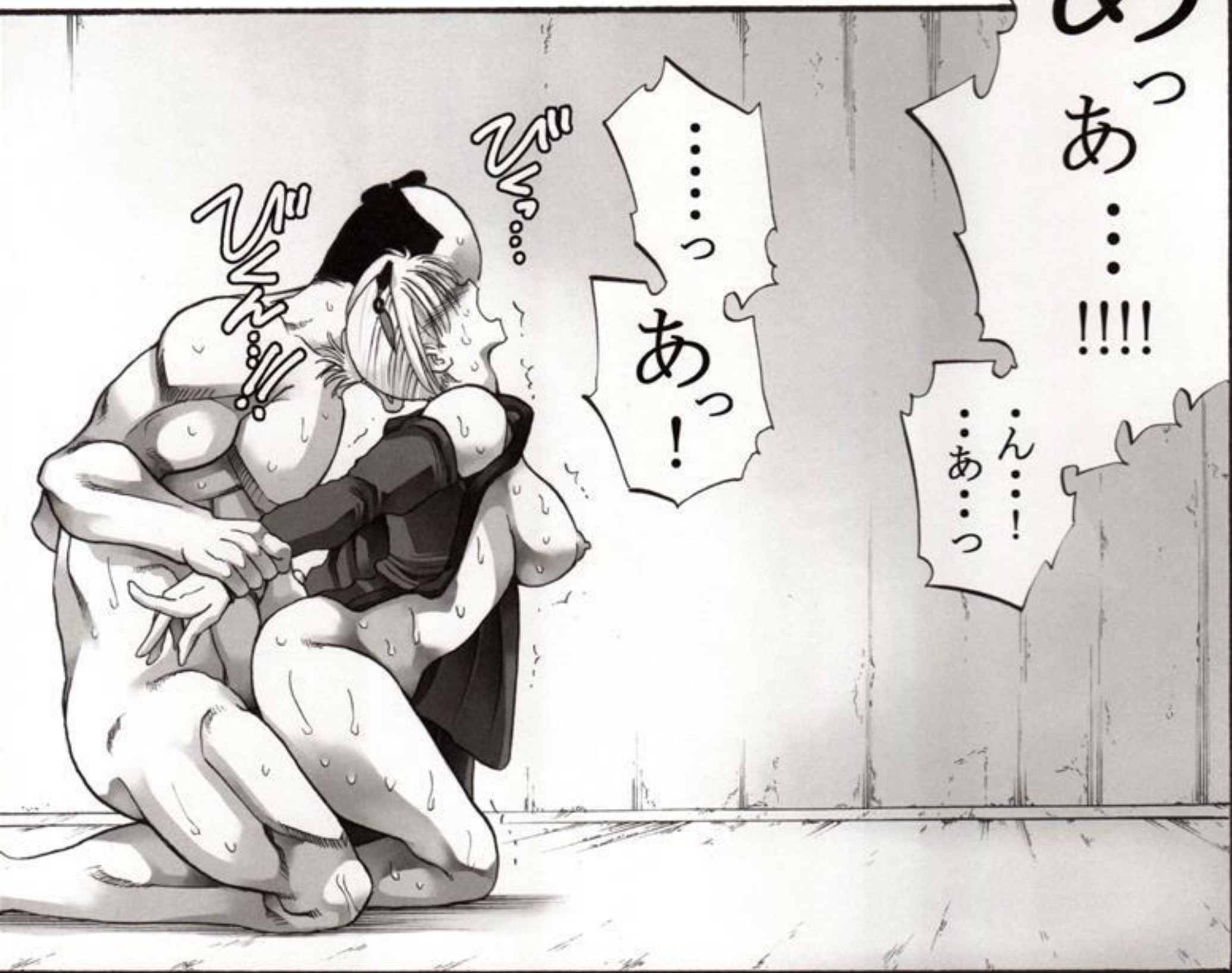
やめい!
やめっ……!



あ
あっ
……
!!!!

あっ!
……

ん……!
……あ……っ



はあ

はあ

はあ
はあ



はあ

はあ

素直になっ
てみるも
んでしょ
うです?
悪かない
でしょう?
……

あん!

あっ
いいっ
いく……!

あ!

こんなに
気持ちの
良い事は他に
ありませんぜ

あっ!

イ……ク……ッ……
あぁ
!!!!

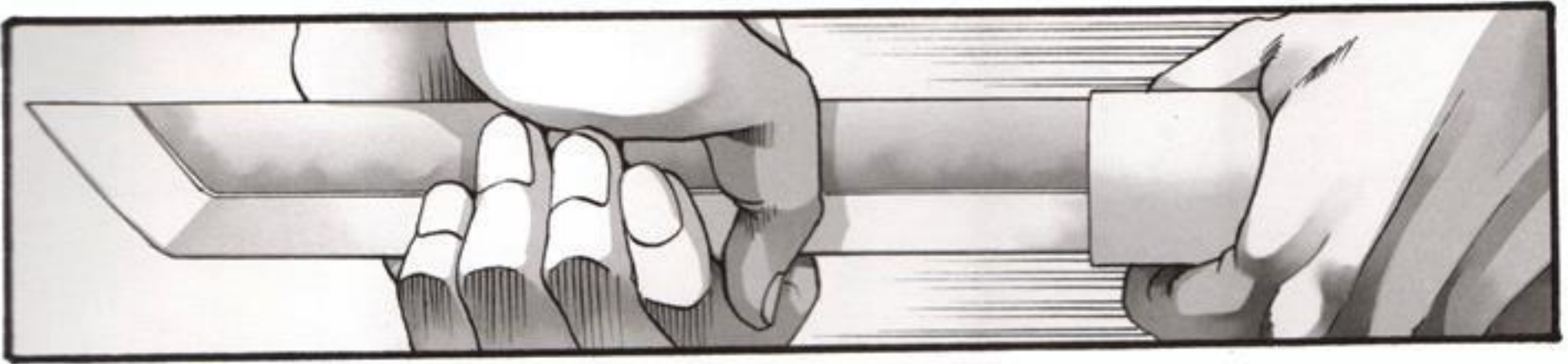
済まぬ
皆……

あぁ

わっちはもう
駄目かも
知れぬ……

あっ





おいおい

いきなり
刃物たあ物騒な
挨拶じゃねえか



女一人

身請けに
来たぜ

月夜に
さざんざ
ざんざん
と音
が
響
き
ま
せ
う
た
の
詩